

令和7年度病害虫発生予察特殊報第2号

令和7年7月16日
千葉県農林総合研究センター長

クビアカツヤカミキリの確認について

1 害虫名：クビアカツヤカミキリ

2 学名：*Aromia bungii*

3 作物名：ウメ

4 発生確認の経緯及び国内での発生状況

- (1) 令和7年6月27日千葉県北部のウメにおいて、クビアカツヤカミキリのフラス（幼虫の糞と木くずが混ざったもの）及び成虫が確認された（写真1）。
- (2) 本種は東アジア原産で国内では、平成24年に愛知県で初めて確認されて以来、15都府県で発生が確認されている。
- (3) 千葉県では、令和6年10月にサクラで本種のフラスが初確認されている。農作物への加害は今回が初めてである。
- (4) ウメやモモ、スモモなどの加害情報はあがるが、ナシやビワでは加害が確認されておらず、本虫の加害を受けにくいとされている。

5 特徴

(1) 形態

成虫（写真2）の体長は2.5cm～4cmであり、体色は全体に光沢のある黒色で、赤い胸部と長い触角がある。前胸背板の側方に1対のトゲ状隆起がある。

(2) 生態と被害

本種は、サクラやモモ、スモモ、ウメなどの樹皮の隙間に卵を産み付ける。卵は2週間ほどで孵化し、幼虫は樹木内部を食害し、フラスを排出する。幼虫期間は2～3年で春から秋にフラスが見られる。被害木は数年のうちに枯れ、成虫が近くの樹木に移ることで被害が広まる。本種は、産卵数が多く繁殖力が高いため早期発見、早期防除が重要である。

6 防除対策

(1) 特定外来生物に指定されているため、生きたまま持ち運ぶことは禁止されている。

圃場内で本種を発見した際は、見つけ次第直ちに捕殺する。また、確認が必要な場合もあるため、捕殺個体は保管もしくは写真を撮っておく。

(2) 疑わしいフラスを発見した場合、排糞孔（写真3）に登録のある殺虫剤を注入して内部の幼虫を駆除する。内部にいる幼虫には薬剤が届きにくいので、針金などでフラスをかき出し、排分孔に散布ノズルをできるだけ深く差し込んで殺虫剤を噴射する。多くの幼虫が穿孔して坑道がつながった状態になると、幼虫まで薬をいきわたらせることが難しくなるため、被害の軽微な木を対象に実施する。

(3) 成虫の脱出、分散を防ぐため、被害木を発見した場合は、目合い4mm以下の網を地際部から1m～2m程度の高さまで巻き付ける。樹幹に網が密着していると成虫が網を噛み切って逃げる可能性があるため、網の糸は太いものを選び、余裕を持たせて巻く。

(4) 詳細な防除対策は、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所の「クビアカツヤカミキリの防除法」を参照する。

URL:<https://www.ffpri.go.jp/pubs/chukiseika/5th-chuukiseika12.html>

※ クビアカツヤカミキリの成虫や被害が疑われる際は、発見場所に応じて以下に連絡する。
農地で発見した場合は、環境農業推進課（043-223-2888）及び病害虫防除課へ、公園や街路樹など農地以外の場合は、千葉県生物多様性センター（043-265-3601）に連絡する。



写真1 排糞孔から排出されたフラス



写真2 クビアカツヤカミキリの成虫



写真3 樹木の側面にできた排糞孔

- ・ 病害虫発生予察情報は、インターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

